

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/10/01

## スペイン・ギリシャ懸念を払拭できるか

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ユーロ/円</a>	➡	同時緩和後の世界景気は？ 予想レンジ： 96.00円～103.00円	2 - 3
<a href="#">ユーロ/ドル</a>	➡	スペイン・ギリシャ情勢睨み 予想レンジ： 1.2400～1.3250ドル	4 - 5
<a href="#">ポンド/円</a>	➡	ほぼユーロ/円次第の相場 予想レンジ： 120.00 ～ 131.00 円	6 - 7
<a href="#">ポンド/ドル</a>	➡	欧州の動向睨みの展開 予想レンジ： 1.5600 ～ 1.6600 ドル	8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



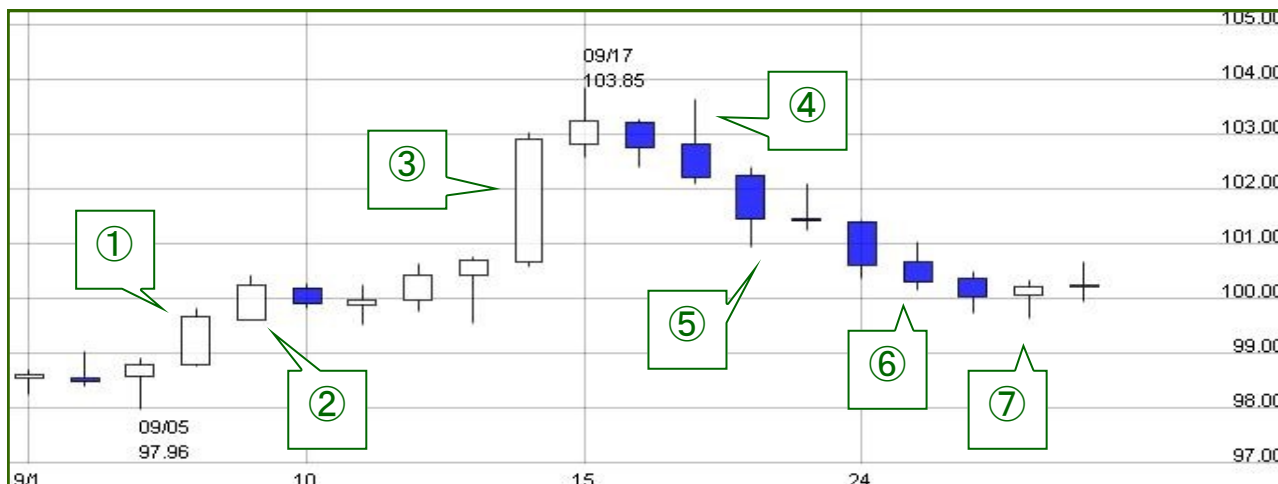
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# EUR/JPY

## ユーロ/円 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	98.55円	103.85円	97.96円	100.24円



①	6日、欧州中銀(ECB)が政策金利を0.75%に据え置くと小幅にユーロが上昇(一部に利下げ予想があったため)。その後、ドラギ総裁が期間1~3年の国債を無制限に購入するプログラム(OMT)を発表すると、材料出尽くし感から瞬間的にユーロ売りが強まったものの、OMTを好感して欧米株価が上昇するとユーロ買いに転換。ユーロ/円は99.80円まで上昇した。
②	7日、欧州株高やスペイン国債利回りの低下を背景にユーロは上昇。さらに、独7月鉱工業生産が前月比+1.3%と市場予想(±0.0%)を上回ったことなどを好感してジリジリと上値をのぼし、ユーロ/円は100.43円まで上昇した。しかし、米8月非農業部門雇用者数が予想を下回る増加幅にとどまるとドル/円が下落。これにつれてユーロ/円は99.80円まで反落した。
③	14日、前日の米量的緩和第3弾(QE3)発表を好感してアジア、欧州、米国の各市場で株高が進行、さらに原油先物価格も100ドル台に上昇するとユーロ/円は4カ月ぶりに103円台乗せを達成した。米QE3の買取り対象に米国債が含まれなかったためその利回りが上昇し、ドル/円が上昇した事もユーロ/円の上昇につながった。
④	19日、日銀が資産買入れ基金の10兆円増額や長期国債買入オペの下限金利(年0.1%)の撤廃などを発表すると円売りが強まり、ユーロ/円は103.63円まで上昇した。しかしその後は、スペイン政府が救済基金への支援要請を渋っている事などを嫌気して欧州株が下落するとユーロ売りが優勢となり、日銀の緩和発表前の水準を割り込んで102.10円まで下落した。
⑤	20日、中国8月HSBC製造業PMIが47.8と10ヶ月連続で50.0を割り込み、活動縮小が続いている様子が示された。これをきっかけにリスク回避の動きが強まるとユーロが下落。さらに、ギリシャで次回の支援資金を受け取る条件である追加緊縮策(予算案)について連立与党内で合意が得られなかった事が伝わると、ユーロ売りが加速した。
⑥	25日、ドイツ、オランダ、フィンランドの3カ国が、スペインは自国の銀行問題のコストを負担すべきで、ユーロ圏の恒久的な救済基金である欧州安定化メカニズム(ESM)による銀行への資本注入は限定的であるべきだとの認識を示したほか、スペインの首都マドリードで、新たな緊縮策に反対するデモ隊が警官隊と衝突したとの報道も嫌気され、ユーロ/円は100.16円まで下落した。
⑦	27日、スペイン政府が2013年度予算と改革パッケージを閣議で承認したと発表。同国の全面支援要請が遠退いたとの見方から発表直後にユーロ/円は99.64円まで下落した。しかし、同国のデギンドス財務相が「欧州連合(EU)の推奨を上回る改革案を計画している」「改革案はEUの提案をすべて反映する」などと発言した事を受けて再び早期支援要請への期待が高まるとユーロ買いに転換した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## EUR/JPY

## 今月のポイント

9月のユーロ/円相場は97.96円～103.85円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.8%の小幅な上昇(ユーロ高・円安)となった。6日に欧州中銀(ECB)が無制限の国債買い入れ(OMT)を発表。13日に米連邦公開市場委員会(FOMC)が量的緩和第3弾(QE3)を発表し、さらには19日に日銀が10兆円規模の追加緩和を発表した。9月前半はこうした「世界同時緩和」を好感して103円台まで上昇したが、後半にはスペインやギリシャに対する懸念が高まり、再び100円を割り込むなど上げ幅を縮小する流れとなった。

10月のユーロ/円相場の注目ポイントは、①ギリシャ・スペインの続報、②米国景気の動向、③中国景気の動向などが挙げられよう。①については、スペイン政府は9月末に2013年度の緊縮型予算案を閣議承認しており、一部にはこれを、トロイカ(EU、ECB、IMF)への支援要請に向けた地ならしと見る向きもある。同国が支援を要請すれば、ECBによるOMTの発動が見込まれ、スペイン国債利回りが低下する事になるため、ユーロ買い材料となる可能性が高い。ギリシャについても9月末に、追加緊縮措置に連立与党党首らが合意したと伝えられており、今後ギリシャ議会の審議を経て、トロイカがこれを承認すれば、同国は310億ユーロの次回支援を受けることが出来る。10月8日のユーロ圏財務相会合までにスペインが支援要請を行い、同会合でギリシャ向けの次回支援が決まるか否かが注目される。②については、9月雇用統計(5日)や9月小売売上高(15日)などに、QE3の効果が表れるか注目しておきたい。③については、景気減速懸念が強まる中、9月貿易収支(13日)や第3四半期国内総生産(GDP)・9月鉱工業生産など(いずれも18日)の結果が注目されよう。世界景気の両エンジンである米国と中国の景気減速はリスク回避型のユーロ安・円高につながりやすく、景気回復期待はリスク許容度拡大型のユーロ買い・円売りにつながりやすい。(神田)

(予想レンジ:96.00～103.00円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(月)	日銀短観	10/15(月)	9月米小売売上高
	9月中国製造業PMI	10/16(火)	10月独ZEW景況感調査
	8月ユーロ圏失業率		10月ユーロ圏ZEW景況感調査
	9月米ISM製造業景況指数	10/17(水)	9月米住宅着工件数
10/3(水)	8月ユーロ圏小売売上高	10/18(木)	第3四半期中国GDP
	9月米ADP全国雇用者数	10/19(金)	EU首脳会議(18日～)
	9月米ISM非製造業景況指数	10/23(火)	10月ユーロ圏消費者信頼感・速報
10/4(木)	欧州中銀金融政策発表	10/24(水)	10月独IFO景況指数
10/5(金)	日銀金融政策決定会合(4日～発表)		米FOMC政策金利発表
	9月米雇用統計	10/26(金)	第3四半期米GDP・速報値
10/8(水)	8月独鉱工業生産	10/29(月)	10月独消費者物価指数・速報
	ユーロ圏財務相会合	10/30(火)	日銀金融政策決定会合(発表)
10/13(土)	9月中国貿易収支	10/31(水)	9月ユーロ圏失業率

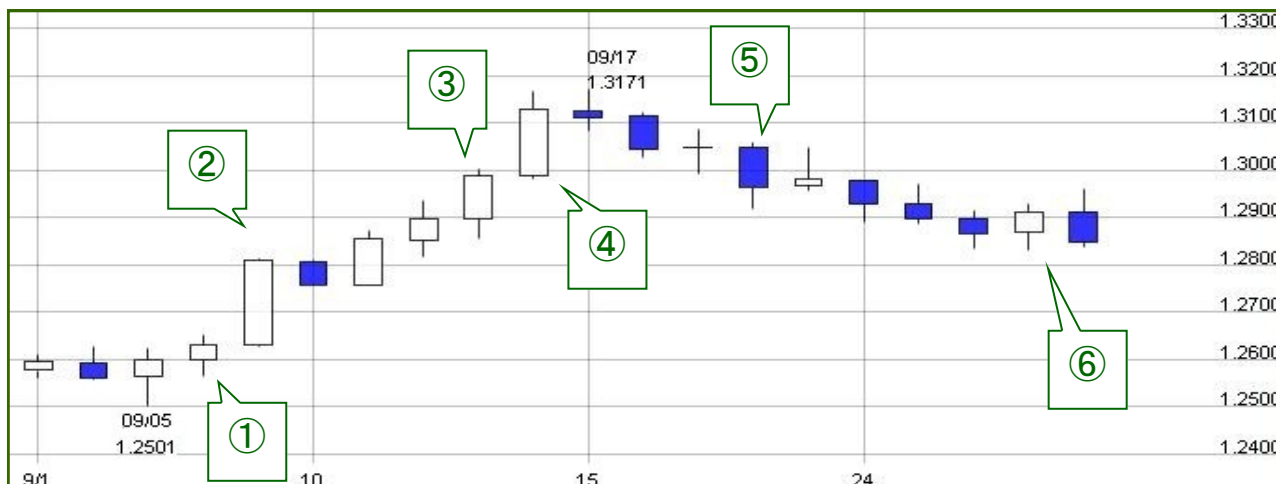
巻頭の特記事項を必ずお読みください。



# EUR/USD

## ユーロ/ドル 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.2576ドル	1.3171ドル	1.2501ドル	1.2847ドル



- ① 6日、欧州中銀 (ECB) が政策金利を0.75%に据え置くとユーロが上昇(一部に利下げ予想があったため)。その後、ドラギ総裁が期間1~3年の国債を無制限に購入するプログラム (OMT) を発表すると、材料出尽くし感から一時ユーロ売りが強まったものの、OMTを好感して欧米株価が上昇すると再びユーロ買いに転換した。
- ② 7日、欧州株高やスペイン国債利回りの低下を背景にユーロは上昇。さらに、独7月鉱工業生産が前月比+1.3%と市場予想(±0.0%)を上回ったことなどを好感してジリジリと上値を伸ばした。さらにその後、米8月非農業部門雇用者数が9.6万人増と予想(13.0万人増)を下回る増加幅にとどまると、米追加緩和観測が高まりドル安が進行。ユーロ/ドルは1.2813ドルまで上昇幅を拡大した。
- ③ 13日、米連邦公開市場委員会 (FOMC) 後の声明で、異例の低金利を据え置く期間を従来の「2014年終盤まで」から「2015年半ば」へと延長し、「住宅ローン担保証券 (MBS) を毎月400億ドルのペースで購入」と発表した。買入れ額が事前に予想された規模(月額700億ドル前後)よりも小さかった事を受けて、ユーロ/ドルは発表直後こそ1.2856ドルまで下げたが、その後はQE3(量的緩和第3弾)実施を好感した米株の大幅上昇を背景に反発。その後バーナンキ米連邦準備制度理事会 (FRB) 議長が「時期尚早の緩和解除は行わない」「労働市場のぜい弱さを非常に懸念」「FRBは経済が回復するまであらゆる手段を講じる」などと発言し、米低金利政策が長期化するとの観測を背景にドル売りが加速すると、1.3001ドルまで一段高となった。
- ④ 14日、前日の米QE3発表を好感してアジア、欧州、米国の各市場で株高が進行、さらに原油先物価格も100ドル台に上昇するとドル売りの流れが一層強まり、ユーロ/ドルは1.3168ドルまで上昇した。
- ⑤ 20日、中国8月HSBC製造業PMIが47.8と10ヶ月連続で50.0を割り込み、活動縮小が続いている様子が示された。これをきっかけにリスク回避の動きが強まるとユーロが下落。さらに、ギリシャで次回の支援資金を受け取る条件である追加緊縮策(予算案)について連立与党内で合意が得られなかった事が伝わると、ユーロ売りが加速した。
- ⑥ 27日、スペイン政府が2013年度予算と改革パッケージを閣議で承認したと発表。同国の全面支援要請が遠退いたとの見方から発表直後にユーロ/ドルは1.2829ドルまで下落した。しかし、同国のデギンドス財務相が「欧州連合 (EU) の推奨を上回る改革案を計画している」「改革案はEUの提案をすべて反映する」などと発言した事を受けて再び早期支援要請期待が高まるとユーロ買いに転換し、1.29ドル台を回復した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## EUR/USD

## 今月のポイント

9月のユーロ/ドル相場は1.2501ドル～1.3171ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.1%の上昇(ユーロ高・ドル安)となった。6日に欧州中銀(ECB)が無制限の国債買い入れ(OMT)を発表した事をきっかけに上昇を開始。さらに13日に米連邦公開市場委員会(FOMC)が量的緩和第3弾(QE3)を発表すると、17日には5月4日以来の高値となる1.3171ドルまで上値を伸ばした。しかし9月後半に入ると、スペイン政府がECBによるOMT発動の条件である救済基金への支援要請をためらう様子が見られた事やギリシャ向け次回支援に不透明感が生じた(追加債務再編観測が台頭)事などを嫌気して上げ幅を縮小した。

10月も前半は、スペイン及びギリシャの動向がユーロ/ドル相場を左右する事になりそうだ。スペイン政府は9月27日に、2013年度の緊縮予算案を閣議承認、翌28日には金融機関に対するストレステストの結果を公表し、ストレスシナリオの下での資本不足額を593億ユーロとした。こうした点から同国の全面支援要請に向けた準備が整いつつあるとする見方もある。恒久的救済基金である欧州安定メカニズム(ESM)が稼動する予定の10月8日にはユーロ圏財務相会合も開催されるため、同会合までにスペインが正式な支援要請に踏み切るか注目されよう。また、ギリシャでは連立与党の党首らが9月27日に追加緊縮措置に合意した。今後ギリシャ議会の審議を経て、トロイカ(EU・ECB・IMF)がこれを承認すれば、同国は310億ユーロの次回支援を受けることが出来る。こうした楽観シナリオをたどる事が出来ればユーロが上昇する事になるだろう。しかし、その一方で、スペイン政府が引き続き支援要請をためらうなど、楽観シナリオ通りに事が運ばない場合は再度ユーロ売りが強まる可能性も否定できない。(神田)

(予想レンジ:1.2400～1.3250ドル)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

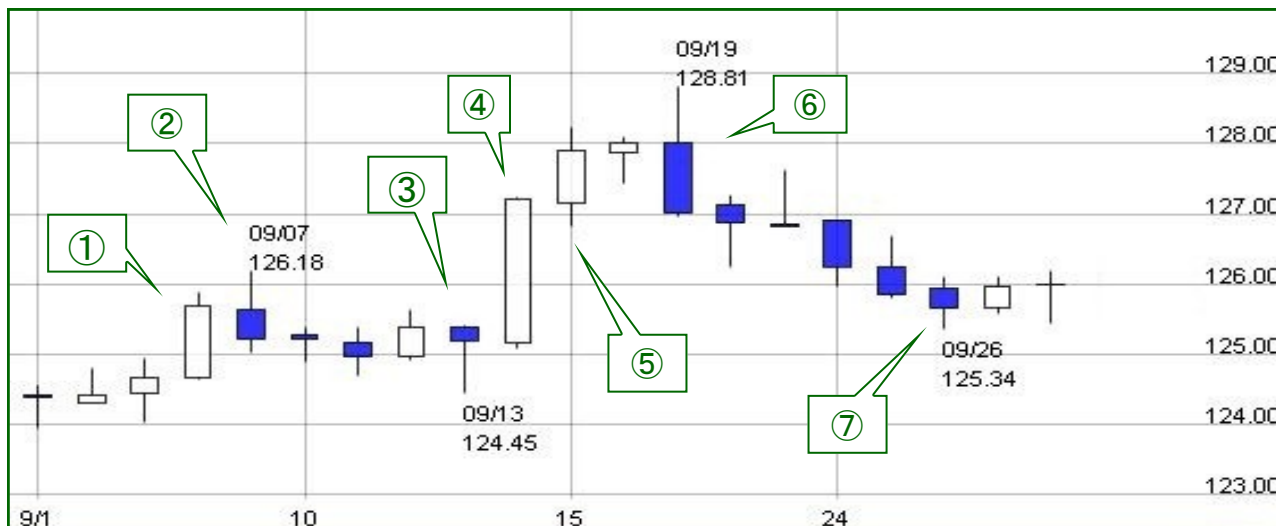
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(月)	9月中国製造業PMI	10/15(月)	9月米小売売上高
	8月ユーロ圏失業率	10/16(火)	10月独ZEW景況感調査
	9月米ISM製造業景況指数		10月ユーロ圏ZEW景況感調査
10/3(水)	8月ユーロ圏小売売上高		9月米鉱工業生産
	9月米ADP全国雇用者数	10/17(水)	9月米住宅着工件数
	9月米ISM非製造業景況指数	10/18(木)	第3四半期中国GDP
10/4(木)	欧州中銀金融政策発表	10/19(金)	EU首脳会議(18日～)
	米FOMC議事録	10/23(火)	10月ユーロ圏消費者信頼感・速報
10/5(金)	9月米雇用統計	10/24(水)	10月独IFO景況指数
10/8(月)	8月独鉱工業生産		米FOMC政策金利発表
	ユーロ圏財務相会合	10/26(金)	第3四半期米GDP・速報値
10/9(火)	EU財務相理事会	10/29(月)	10月独消費者物価指数・速報
10/11(木)	ECB月例報告	10/31(水)	9月ユーロ圏失業率
10/13(土)	9月中国貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# GBP/JPY

## ポンド/円 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	124.41円	128.81円	123.95円	125.98円



- ① 6日、欧州中銀 (ECB) は予想外の政策金利据え置きを決定。これを受けてユーロ/円が上昇するとポンド/円も上昇。その後、ドラギECB総裁が記者会見で「償還までの期間が1～3年の国債を集中的に購入」「債券購入は無制限、完全に不胎化される」などと発言。事前に伝わっていた内容とほぼ同じであったことからユーロ/ポンドでユーロ安・ポンド高が進むと、ポンド/円は一段高となった。さらに、米経済指標の好結果を受けて欧米株が上昇すると、125.88円まで値を伸ばした。
- ② 7日、スペイン国債利回り低下などを背景に欧州株が上昇した他、英7月鉱工業生産が前月比+2.9%と市場予想(+1.5%)を大幅に上回ったことを受けてポンド/円は126.18円まで上昇。しかし、米8月雇用統計において非農業部門雇用者数が9.6万人の増加と予想(13.0万人増)を大きく下回った上、前月分も下方修正(16.3万人増→14.1万人増)されるなど、事前の期待に反して結果が弱かったことを受けてドル/円が下げると、ポンド/円は125.03円まで連れ安した。
- ③ 13日、米新規失業保険申請件数の弱い結果や、米連邦公開市場委員会(FOMC)後の声明で、異例の低金利を据え置く期間を従来の「2014年終盤まで」から「2015年半ば」へと延長し、「住宅ローン担保証券(MBS)を毎月400億ドルのペースで購入」と発表を受けてドル/円が値を下げると、ポンド/円は連れて124.45円まで急落した。しかし、その後すぐに日銀によるレートチェックと見られる動きによってドル/円が反発したことから、ポンド/円も反発した。
- ④ 14日、前日に米国で導入された量的緩和第3弾(QE3)を好感してアジア・欧州株が堅調に推移する中、ポンド/円は上昇した。
- ⑤ 17日、米9月NY連銀製造業景気指数が-10.41と予想(-2.00)を大幅に下回り、ポンド/ドルが上昇するとポンド/円は上昇。また、日銀が追加金融緩和に踏み切るのでは、との憶測や、日中関係の緊迫化などを背景とする円売りも押し上げ要因となった。
- ⑥ 19日、日銀が資産買入等基金の規模の10兆円増額や、長期国債買入オペの下限金利である年0.1%の撤廃などを発表。予想外の追加金融緩和策を受けてドル/円や日経平均株価が上昇し、リスクを積極的に取る機運が高まると、ポンド/円は128.81円まで上昇した。しかし、その後は欧州株の軟調推移や、ドル/円の失速を受けて126.95円まで値を下げた。なお、英中銀の金融政策委員会議事録が発表され、政策据え置きが全会一致だったことが明らかになったが、材料視されなかった。
- ⑦ 26日、スペイン中銀が「国内総生産(GDP)が第3四半期も急激な落ち込みとなる」との見通しを示した事などを受けてスペイン国債利回りが上昇すると、リスク回避ムードが強まりポンド/円は125.34円まで値を下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## GBP / JPY

## 今月のポイント

9月のポンド/円相場は123.95円～128.81円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.4%の上昇(ポンド高・円安)となった。この月のポンド/ドルは、ほとんどユーロ/円に連れて動く展開となった。市場の関心が米国の金融政策や欧州の問題に集まる一方、英国は金融政策据え置きの方算が大きく(実際、据え置かれた)、独自の経済イベントが材料視されることはほとんどなかった。

10月のポンド/円はやはり欧州睨みの展開となりそうだ。日本は追加金融緩和を行ったばかり、また英国については資産購入枠を使い切る11月に入るまで金融政策の変更はないと見られている。つまり、日英どちらも独自の材料に乏しいところが目につく。他方、足元の金融市場の関心は依然として欧州の債務問題に集まっており、スペインが欧州救済基金に支援を要請するかどうか、またギリシャの支援条件緩和交渉はどうなるのかがポイントとなる。8日のユーロ圏財務相会合や、18-19日に行われるEU首脳会議に向けた思惑、そして実際の会議で決定されたことや話し合われた内容、要人発言などを確認しながら動くユーロ/円相場を眺めつつ、ポンド/円は方向感を模索する展開になるだろう。

なお、英国の金融政策委員会(MPC)については、10月こそ政策据え置きの方算大ではあるが、11月のMPCでの資産購入枠拡大の可能性を睨んで、議事録には注目が集まるとみる。11月MPCでの大幅資産購入枠拡大の可能性が示唆されれば、ポンドの押し下げ要因になると考えられる。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 120.00～131.00円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(月)	9月英PMI製造業		8月英商品貿易収支
	9月米ISM製造業景況指数	10/11(木)	8月日機械受注
10/2(火)	9月英PMI建設業		9月中国貿易収支
10/3(水)	9月英PMIサービス業	10/16(火)	9月英消費者物価指数
	9月米ADP全国雇用者数	10/17(水)	9月英雇用統計
	9月米ISM非製造業景況指数		BOE議事録
10/4(木)	BOE政策金利発表	10/18(木)	第3四半期中国GDP
	欧州中銀金融政策発表		9月英小売売上高指数
10/5(金)	日銀金融政策決定会合(4日～発表)	10/19(金)	EU首脳会議(18日～)
	9月米雇用統計	10/22(月)	9月日通関ベース貿易収支
10/8(月)	ユーロ圏財務相会合	10/24(水)	FOMC政策金利発表
10/9(火)	8月日経常収支	10/25(木)	第3四半期英GDP・速報値
	8月英鉱工業生産	10/30(火)	日銀金融政策決定会合(発表)

巻頭の特記事項を必ずお読みください。



# GBP/USD

## ポンドドル 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.5879ドル	1.6307ドル	1.5824ドル	1.6145ドル



①	7日、スペイン国債利回り低下などを背景に欧州株が上昇した他、英7月鉱工業生産が前月比+2.9%と市場予想(+1.5%)を大幅に上回ったことを受けてポンド/ドルは上昇した。その後、米国で発表された8月雇用統計は、失業率が8.1%と予想(8.3%)から大幅に改善した一方、非農業部門雇用者数は9.6万人の増加と予想(13.0万人増)を大きく下回った上、前月分も下方修正(16.3万人増→14.1万人増)された。事前の期待に反して非農業部門雇用者数の結果が弱かったことを受けて、ドル売りに拍車がかかると1.6032ドルまで値を伸ばした。
②	11日、憲法裁判所が欧州安定メカニズム(ESM)に関する判断を延期しないと発表した事を受け、判断延期に対する不安が後退し、ユーロ/ドルが上昇すると、ポンド/ドルも連れ高。さらに、格付け会社ムーディーズが「米予算協議で国内総生産(GDP)に対する債務比率の低下トレンドが示されない場合、米国は最上位の『Aaa』を失う恐れがある」との見解を示したことを受けたドル売りが強まるとポンド/ドルは上値を伸ばした。
③	13日、米連邦公開市場委員会(FOMC)後の声明で、異例の低金利を据え置く期間を従来の「2014年終盤まで」から「2015年半ば」へと延長し、「住宅ローン担保証券(MBS)を毎月400億ドルのペースで購入」と発表した。発表後のポンド/ドルは一旦1.6073ドルまで急落した後に急反発。その後、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が「時期尚早の緩和解除は行わない」などと発言し、米国の緩和的な金融政策が長期化するとの思惑が拡がると、ポンド/ドルは一段高となった。
④	14日、前日に導入された米量的緩和第3弾(QE3)を好感してアジア・欧州株が堅調に推移する中、ポンド/ドルは1.6254ドルまで上昇した。
⑤	19日、日銀による予想外の追加金融緩和策を受けて日経平均株価が上昇し、リスクを積極的に取る機運が高まると、ポンド/ドルは1.6268ドルまで上昇した。しかし、その後は欧州株の軟調推移などによって失速した。なお、英中銀(BOE)が発表した金融政策議事録から全会一致で金融政策据え置きに投票したことが明らかになったが、相場は反応しなかった。
⑥	21日、アジア株の堅調推移を受けてポンド/ドルは上昇。さらに、夕方にまとまった規模の買いでユーロ/ドルが急騰するとポンド/ドルも1.6307ドルまで連れ高した。
⑦	27日、スペイン政府が2013年度予算と改革パッケージを閣議承認したと発表。同国のデギンドス財務相が「欧州連合(EU)の推奨を上回る改革案を計画している」「改革案はEUの提案をすべて反映する」などと発言した事を受けて再び早期支援要請期待が高まるとユーロ/ドルは上昇し、ポンド/ドルもこれに連れ高となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。



## GBP / USD

## 今月のポイント

9月のポンド/ドル相場は1.5824ドル～1.6307ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.7%の上昇(ポンド高・ドル安)となった。

この月のポンド/ドルは、英国の金融政策が据え置き公算が大きい中(実際、据え置かれた)、独自の経済イベントで動くことはほとんどなく、金融市場の注目が集まった欧州の問題や欧米の金融緩和などを背景に動くユーロ/ドルにほとんど連れて動く展開となった。下旬はユーロ/ドルが軟化した一方、ポンド/ドルは底堅さもみせたが、これはユーロ/ポンドでポンド高が進んでいた影響が大きく、ポンド/ドルが強い、というわけではなかった。

英国の金融政策については、現在の資産購入枠を使い切る11月に入ってからこの枠の拡大をすると見る市場関係者が多く、10月のポンド/ドルも基本的な値動きはユーロ次第、という状況が続きそうだ。ユーロについては、スペインが欧州救済基金に支援を要請するかどうか、またギリシャの支援条件緩和交渉の進捗を睨んで取引されるだろう。その鍵を握る大型イベントとして、8日のユーロ圏財務相会合や18-19日のEU首脳会議の内容には注目が集まる。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 1.5600～1.6600ドル)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(月)	9月英PMI製造業	10/12(金)	10月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
	9月米ISM製造業景況指数	10/15(月)	9月米小売売上高
10/2(火)	9月英PMI建設業	10/16(火)	9月英消費者物価指数
10/3(水)	9月英PMIサービス業		9月米鉱工業生産
	9月米ADP全国雇用者数	10/17(水)	9月英雇用統計
	9月米ISM非製造業景況指数		BOE議事録
10/4(木)	BOE政策金利発表	10/18(木)	9月英小売売上高指数
	欧州中銀金融政策発表		10月米フィラデルフィア連銀景況指数
10/5(金)	9月米雇用統計	10/19(金)	EU首脳会議(18日～)
10/8(月)	ユーロ圏財務相会合	10/24(水)	FOMC政策金利発表
10/9(火)	8月英鉱工業生産	10/25(木)	第3四半期英GDP・速報値
	8月英商品貿易収支	10/26(金)	第3四半期米GDP・速報値
10/10(水)	米地区連銀経済報告(ベージュブック)	10/31(水)	9月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。